



安達事務局長(左)の話  
聞く畠山氏(右) 札幌市

## 共産党の国保料引き下げ提言

### 畠山氏が道医師会と懇談

日本共産党の畠山和也前衆院議員は7日、党の「高すぎる国民健康保険料・税の引き下げ」提言を携え、北海道医師会(長瀬清会長)と懇談しました。

安達督(ただし)事務局長は「他県の医師国保組合に

は、財政困難なところもある」と国庫補助の削減(2016年度から5年間で32%から13%)の影響を指摘しました。

畠山氏が「医療保険制度があるのに保険料が高すぎて払えない、滞納のために保険証

取り上げや差し押さえで使えないといった現状を正したい」と述べると、「国民皆保険の優れた制度を続けられるようにしなければなりません」と安達氏。

この間、道歯科医師会や病院協会、国保連合会など医療

関係団体を訪問した畠山氏。道保険医会の平川英行事務局長は「医療改革が規制改革推進会議から発信されている」と告発し、畠山氏が「現場からではない官邸主導を変えなければなりません」と応じました。

医師派遣(ドクターバンク)事業を担う道地域医療振興財団や、道内に10病院を有する日本赤十字社は「地域医療を守るうえで国保の構造的な問題の解決は重要です」との認識を示しました。